

Hello

2005

1

No.242

friends

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ(あ-035号)1階 045-896-2626

特集 / アートと環境 ~あるワークショップの試み~



思なこれ
いんたれ
すまたや
んたれ

これは、神奈川県国際交流協会が企画した「アートと環境」という講座の中で、ある参加者が土を絵の具にして描いた絵です。協会が運営している地球市民かながわプラザは、横浜市内にありますが、周辺には小さな森や虫が生息できる池など、豊かな自然環境が残っています。しかし、このような環境は身近なところから日々失われつつありますし、このことは世界規模で起きている環境破壊と無関係ではないと言われています。

私たちが失いかけている大切な環境がどのようなものなのかについて、身近な環境のなかに身を置きながら考える素地を子どもたちと大人たちが楽しい活動を通して分かちあうこと。この講座は、このことを目的に企画されました。ふだんは見過ごしている「土」という身近な素材を絵の具に変身させることで、いままで、気づけなかったことに気づけたら…。今回の特集では、「土」を使ったアート・ワークショップの実際と企画のねらいを紹介します。

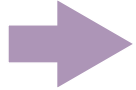
アートと環境「自然の絵の具で絵を描こう！」秋編

2004年11月13日(土)10時~15時

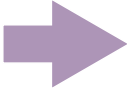
春・夏・秋と年3回おこなわれたこのワークショップ。11月におこなわれた秋編の活動の様子をまとめてみました。場所は、~~あ-ら~~ 355から徒歩20分のところにある「ふじやま公園」でした。



あ-ら 355に集合



鬱そうとした竹林の中を歩きます



講師と子どもたちのうちあわせ

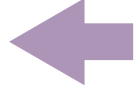
「絵の具として使う土の種類は
いくつくらいあると思う？」
「じゅうまん!!!」
「よーしさがしてみよう！」
「...やっぱ、じゅうがも」
(笑)



採った土をどうするか？



茶こしでふるって



色々な色の土を集めます



土で描いた絵を
山の中に展示しました！



こねる！書く！掻く！描く！



絵の具の作り方と描き方は

土にかかわを
混ぜます

混ぜ合わせて

こんなふうに
指を筆にして...

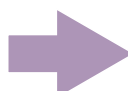
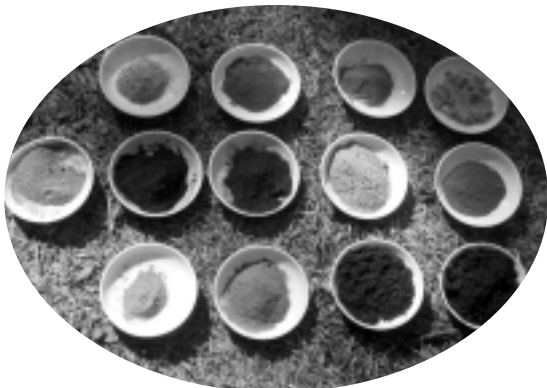


湿った土は
乾かします

分類します



この日は、これだけの種類の土が採れました！



アートと環境「自然の絵の具で絵を描こう！」をめぐる.....

このワークショップの発案・実践者で講師をつとめてくださった下中菜穂さん、松原雅裕さん、金田裕子さんに、この不思議なワークショップが生まれた背景と、ねらいについてお話をいただきました。



下中菜穂
絵描き。造形作家。
東京都大田区のくさっぱら公園の運営活動などをおこなっている。

下中 7, 8年前にラオスで子どもとおこなったワークショップがこのプログラムの前史。現地に絵の具はふんだんにないので、ワークショップが終わるとそこで活動が終わってしまうけれど、土と膠(にかわ)だったら現地にある材料だけでいくらかでも続けられる。子どもたちは絵の具や筆とかの器具を使うと細々とした絵しか描けなかったけれど、土にしたらだんだん大胆になってとても喜んだ。野菜や果物の絵を描いたんだけど、印刷物を見る機会があまりないから、日本の子どもと比べて、ものそのものの重量感がよく出ている実がいい絵を描くんだ。そのときの楽しい気持ちが私の中にずっと残っていた。

松原 「ひとくら」をやっているちょうど同じ時期にぼくと金田はインドネシアに行った。エルニーニョの影響で火災になったジャングルを見に行ったんだ。そのとき知ったのは、燃えたのは、ジャングルじゃなくて「土が燃えたんだ」ということ。ジャングルは泥炭と呼ばれる土でつくられている。文字どおり泥状の炭、何万年もかけて自然がつくりあげてきたものだ。開発によってジャングルの中に運河が掘られて、泥炭層から水分が抜けて、乾いた泥炭に火がついて燃えてしまったのだ。そして土が燃えてしまうと、そこからはジャングルの再生が絶望的。それを見てきて、ぼくらは「土に支えられている」ということを再確認したいと思った。いろんな人とね。身近な土、見慣れた土。でもすぐ見過ごしてしまう土。ちょっと場所が離れると全く違



松原雅裕
デザイナー。
まちづくりにかかわるさまざまなデザインを手がける。

う土。東京から大阪に行くと土の色が違うことに気づく。私たちは豊かな土の色は黒だと思いこんでいるけど、関西では畑の色は白いんだ。そのことに気づいて土により興味をもったんだ。「不思議」を発見するためにテレビなんかは世界中を飛び回るけど、でも実は「不思議」はすぐそこにある。その「何か」に興味を持つことで「不思議」はぼくらに向かって広がってくる。「土」にはたくさんの不思議が隠れていたんだ。

金田 だいぶ前に、高校の友だちでいまも大学で土の研究をしている人の話を聞いて、私たちの暮らしと環境と土がすごくつながっていることに気づかされたことがあって、それを展示などの形にして伝えたいとずっと思っていた。「ひとくら」の企画の中で展示とかワークショップをやりながら、「土」を通して地域のことを考えたり、暮らしを支えているものだとすることに気づいていけると思った。

松原 土のサンプルを集めるだけなら、ぼくらの自己満足で終わってしまう。環境教育に携わる中で何かの「働きかけ」をしたかった。環境やまちづくりの「お勉強をする」というよりは、その「まち」のなかで暮らし、そこで遊ぶ人たちといっしょに造りたいと思っていた。今日のプログラムも「造る・表現する」ということを大事にしたいと思っている。

下中 私は絵描きとして、子どもと美術のワークショップをやっている。「上手な絵を描く」とか、優等生的な結果を美術の中にも求めようとするところを破っていかないワークショップにならない。図工の時間に、ほんの少しの粘土とか、真っ白い紙と鉛筆とかを与えられて「自由に描きなさい」と言われるけれど、それは自由な気持ちをもものすごく制限しているんだ。ラオスの話しもそうだけれど、素材が山のようにあって、やろうと思えばいくらかでも使えるというのがいい。ふだん「清潔にしなさい」と言われている子どもが、今日だけはグチャグチャにできたりすると何かが残る。手でものを描くとか、ものに直接触れる感覚的なことは、何かをその子どもの中に残すはず。今日参加したおかあさんたちも自分でやりだしたら「あら、楽しいわ」となっていた。

金田 私の場合は、土に触発されて年配の方などがいろいろな話をしだすのがおもしろい。「セラミック」をつくることに青春時代を捧げたと話し出す人とか、土を探

しにいったときにその場所に触発されてその地域のいろいろな話しをし出す人とか、その人の背景が見えてくることがある。そういうふうにさせる「深み」とか「ひろがり」を土は持っている。

下中 土は触媒になっているいろいろなことを引き出す幅がある素材なんだと思う。どこにでもあって、土を見たことがないという人はいないというのもいい。今日もお団子をつくりはじめた子がいたけれど、それも土の一つの側面だから、それも否定しない。別に「絵を描かなければいけない」というわけではないから...。お母さん向けに「泥染め」をやるといいかもしれない。アフリカの泥染めは本当にきれいなんだ。いつも「汚い」と思っているものが、実は「きれいなんだ」とって転化してゆくというのがよい。

金田 外で土を見つけて、外で描くということも大きい。雰囲気とか、風とかを感じることもしょにしているから。

下中 山にでかけることはあっても、山で



金田裕子
企画会社イリュージョンミルの代表。くらしをテーマにしたさまざまなプランニングを手がける。

自分の作品を展示するというのは、すごい「異体験」だ。インスタレーション(即興)のおもしろさがある。

金田 空間の持つ力のようなものを感じる。ただ歩くだけじゃなくて、そこで土のかたまりをふるいにかけて、絵を描いたりすることで感じられることがある。

松原 でも、むかしの人はそれを自然にやっていたのではないか。

下中 俳句を詠んだり...

松原 そういうことをするのに、なぜかいま敷居が高くなってしまっているのだ。



2月に行われるワークショップ冬編と作品の展示会がおこなわれます。P5をご覧ください。

* 金田さん、松原さんが企画の段階から関わった兵庫県立一庫(ひとくら)公園のこと。ワークショップ参加者の手によって展示の内容がどんどん変わってゆくユニークな公園です。ホームページは：<http://hitokura.jp/>

* 下中菜穂さんを知るためのホームページ <http://kusappara.que.jp/>
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/xpl/>
松原雅裕さんのホームページ：<http://digitalium.co.jp/>
(日本中の土で描いた絵のサイトもあります)
金田裕子さんのホームページ：<http://www.digitalium.co.jp/illusion/>

フォーラム

「地域の多文化共生を考える二つのフォーラム」

かながわにおける多言語情報の流通の望ましい在り方について考えるフォーラムを開催します。当日は当協会が2004年9月～11月にかけて、社会教育施設等（図書館、公民館、国際交流協会、国際交流ラウンジ）および学校を対象に実施した多言語情報の流通の実態把握のためのアンケート結果報告をするともに、先進事例の紹介等をしながら、関係機関同士の望ましい連携の在り方と、具体的な実践につながる方策について議論します。

第1部 地域における多言語情報流通にかかわる課題と展望

多言語情報の流通に関するアンケート調査結果概要報告

事例発表 ～図書館のできること～
横浜市泉図書館

事例発表 ～公民館のできること～
川崎市教育文化会館

事例発表 ～国際交流ラウンジの現場から～
さがみはら国際交流ラウンジ

まとめ 小林 卓さん（明治大学講師）
渡戸一郎さん（明星大学教授）

第2部 NPOと学校・教育委員会の連携による外国人児童生徒の学習環境の整備（事例報告）

帰国・渡日児童生徒学校生活サポート事業

大阪府教育委員会

学習支援の実際と多言語映像資料の作成

ジャンプ 藤沢市

日時：2月20日（日）13:00～17:00

場所：〒252-0352 1階会議室

対象：自治体の国際政策担当職員、国際交流教会職員、
教育行政関係者（学校教育、社会教育）
NGOスタッフ、一般

定員：80名程度（先着順 申込み締切は2月17日(木)）

参加費：無料

問合せ・申込み：企画情報課（担当：キム）

TEL：045-896-2896 月曜休み

ワークショップルーム（会場隣）では、当日、多言語生活資料の展示をおこないます。

地域日本語コーディネーター養成講座

「地域と学校をつなごう！」

地域で日本語教育や外国籍児童生徒の学習支援に携わるNPOスタッフ、日本語指導協力者等を対象に、日本語指導の実際についての知識を深めると同時に、外国籍児童生徒を持つ家庭の学習・生活課題の理解を深め、NPOと学校・公的機関の連携の意義について学ぶための講座を開催します。

日時：2月26日（土）～27日（日）

両日とも10:00～17:00

プログラム

1日目 2月26日（土）

多文化共生をめざした学校づくりと地域づくり

山脇 啓造さん（明治大学教授）

学校とNPOの連携について 秋田県の事例発表

2日目 2月27日（日）

リソース型日本語の活用法

（社団法人 国際日本語普及協会）

年少者を対象とした日本語教育の考え方とノウハウ

関口 明子さん（社団法人 国際日本語普及協会）

振り返りのワークショップ

嵯峨 創平さん（(特活)環境文化のための対話研究所）

場所：厚木ヤングコミュニティセンター

（小田急本厚木駅下車徒歩5分）

対象：日本語指導協力者、NGOスタッフ、教員、外国人児童生徒にかかわる活動をされている方（日本語指導の経験の有無は問いません）

定員：30名（先着順 申込み締切は2月18日(金)）

参加費：無料

問合せ：企画情報課（担当：キム）

TEL：045-896-2896 月曜休み

協働事業フォーラム

国際協力NGOのネットワークの必要性

県内で国際協力に関わるNGOの間にゆるやかなネットワークを築き、活動の質を高めていくとともに、行政との連携を進めることをねらいとして、多くの関係者が集うフォーラムと地域ワークショップ（学習会）を開催します。

ワークショップ

日時：1月8日（土）13:30～17:00

場所：川崎市国際交流センター

（東急東横線「元住吉」駅より徒歩12分）

ゲスト：熊岡路矢（(特活)日本国際ボランティアセンター代表）

ワークショップ

日時：1月9日（日）13:30～17:00

場所：小田原市民活動サポートセンター

（JR「小田原駅」下車徒歩10分）

ゲスト：山崎唯司（(特活)国際協力NGOセンター事務局長）

フォーラム

「ネットワーク」の意義と課題、可能性について、みんなで考えてみましょう。フェアトレード・ショップの見学も行います。

日時：2月18日（金）15:00～20:30

場所：〒252-0352 1階大会議室

ゲスト：森良（(特活)エコ・コミュニケーション・センター代表）他

主催：横浜NGO連絡会、財団法人神奈川県国際交流協会

問合せ：神奈川県国際交流協会・国際協力課

TEL：045-896-2964までお問い合わせください。

この事業は、「かながわ国際協力基金」による「NGO等協働事業」として実施するものです。

協働団体：横浜NGO連絡会（YNN）横浜及びその周辺地域に活動拠点を置いて国際協力事業を行なうNGO団体が連携し、「共同企画」「政策提言・緊急支援活動」「情報・ネットワーク事業」「横浜国際協力まつりの開催」などの活動を行っています。

TEL：045-831-8870

（NPO法人FHCYアジア障害者パートナーズ）

ことばと文化セミナー

カポエラ体験ワークショップ・連続講座

カポエラは、ブラジルで奴隷としてアフリカから連れて来られた黒人たちが生み出した格闘技・ダンスです。ピリンバウの独特のリズムに合わせ、足を蹴り上げて回転するダイナミックな動きが特徴です。いくつかの流派があり、上級者には帯が授与されるなど、奥の深いカポエラですが、近年では、ブラジルだけでなく、日本、米国等でも、スポーツとして楽しむ人が増えています。講座では、ピリンバウの他、太鼓やタンバリン等の楽器や歌の練習も行います。まずは体験ワークショップに参加して、同じ週から始まる連続講座を受講してみませんか。

日時：

体験ワークショップ 1月16日(日) 15:00～17:00

連続講座 1月18日～3月22日(毎週火曜日)

19:00～20:30

場所：あーぢ 355 1階創作スタジオ

またはワークショップルーム

定員：18名(事前申込制、先着順)

持ち物・服装：動きやすい服(パンツ)

タオルをお持ち下さい。(練習は裸足で行います)

参加費：500円(体験ワークショップ)

13,150円(連続講座)*協会会員は12,100円

問合せ・申込み：国際協力課(担当：大塚)

TEL：045-896-2964 FAX：045-896-2945

E-Mail：minsai@k-i-a.or.jp 月曜休み

アートと環境

「自然の絵の具で絵を描こう！」冬編+展覧会

自然の絵の具で絵を描こう！冬編

「土」という自然の素材を使って絵を描くとともに、いたち川をかたどった大きな展示物をみんなで作ってみよう！

日時：2月5日(土) 9:45集合 10:00～15:00

場所：あーぢ 355 1階ワークショップルーム

対象：小学生20人(先着順)

持ち物：お弁当・飲み物・敷物・タオル

服装等：動きやすく汚れてもいい服装とはき慣れた運動靴

参加費：無料

申込み：地球市民学習課(担当：相場)

1月12日(水) 9:00～ 受付開始

TEL：045-896-2899 月曜休み

FAX：045-896-2945

アートと環境「自然の絵の具で絵を描こう！」展覧会

いたち川周辺で採取した土など自然の絵の具で5, 7, 11, 2月のワークショップで描いた作品や写真などの展示とビデオを放映します。また、体験コーナーでは実際に自然の絵の具を使って絵を描いてみることもできます。

日時：2月8日(火)～13日(日) 9:00～17:00

場所：あーぢ 355 3階企画展示室

対象：一般 参加費：無料 申込み：不要

第4回地球市民学習リーダーセミナー「まなびの工具箱」

環境・開発・人権・平和

持続可能な社会をつくる横糸をつなごう

～「国連・持続可能な開発のための教育の10年」の開始にむけて～

「国連・持続可能な開発のための教育の10年」が2005年からスタートするにあたり、環境・開発・人権・平和に関するNGO活動やテーマに関心のある方が集い、情報交換をしながら、神奈川での実践を考えるセミナーを開催します。

日時：1月30日(日) 13:30～16:00

場所：あーぢ 355 1階大会議室

講師：森 良さん(特活)エコ・コミュニケーションセンター(ECOM)代表、持続可能な開発のための教育の10年推進会議理事

対象：このテーマに関心のある方どなたでも 30名(申込先着順) NGO活動等を行っている方は、関わっている活動のパンフレットをお持ちください。

内容：(1)グループワーク「環境・開発・人権・平和～問題と活動のつながりを考える」新聞を素材に環境・開発・人権・平和の問題のつながりと活動のかかわりを話し合い、マップをつくります

(2)「持続可能な開発のための教育の10年」解説

参加費：無料

申込方法：講座名、氏名(ふりがな)、所属(学校名や団体名)、連絡先(電話、FAX、Eメール)をすべて明記して、電話/FAX/Eメールでお申し込みください。

ご参加いただけない場合のみ、こちらからご連絡します。

申込み：企画情報課(担当：山内)

TEL：045-896-2896(月曜休み) FAX：045-896-2945

E-mail：kikaku@k-i-a.or.jp

食とくらしの体験セミナー

「スーホの白い馬」の世界へようこそ！

～モンゴルの料理と馬頭琴&ゲル体験～

午前～昼

・簡単なモンゴルのお料理づくりに挑戦！

午後

・馬頭琴の素敵な生演奏

・馬頭琴をひいてみよう

・本物のゲル(モンゴルの移動式のおうち)の中を探検！

・動物の骨で占いができる！？ など

内容は変更することがあります。あらかじめご了承ください。

日時：2月13日(日) 10:00～14:00ころ

場所：あーぢ 355 1階料理室ほか

対象：こども優先 小学生以上

(親子での参加も可。外国籍のかた大歓迎！大人のみでの参加も若干名ですが受け付けます。)

持ち物：エプロン、タオル、ふきん、三角巾(バンダナでもOK)

幼児保育あり(参加者の妹・弟のみ)

定員：25名(事前申込制、先着順)

参加費：ひとり800円(食料費)

問合せ・申込み：地球市民学習課(担当：佐々木)

TEL：045-896-2899 月曜休み

FAX：045-896-2945

はじめまして、五味です



はじめまして、2004年11月からJICA国際協力推進員に就任した五味と申します。1998年から2000年まで青年海外協力隊員として活動し、バングラデシュで現地の人たちと一緒に働きました。みなさんの中には「ボランティア」という言葉に敷居の高さを感じてしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか？構えずお気軽にご相談ください。みなさんにとっての国際協力、国際理解と一緒に考えます。地球市民がながわプラザに常駐しております。お気軽にお声掛けください。

民族音楽ワークショップ「世界の民族楽器で遊びましょう」
～みんなで叩いてハジケましょう～

今回のテーマは「リズムによってメロディーを奏でよう」です。いろいろな打楽器とスチールパン、アングルンなどのメロディー楽器の紹介、デモ演奏を行います。みなさんも一緒に楽しく演奏し、楽器の魅力を満喫しましょう。

日時：1月29日(土)13:30～16:00

場所：あーぢ 355 5階

こどもの国際理解展示室

対象：一般(こどものみ、又は親子での参加も大歓迎)

定員：特になし

(事前申込不要 入退場自由。直接展示室にお越し下さい)

参加費：無料

(展示室観覧料として大人500円、大学・高校生300円、中・小学生100円が必要です)

講師：三縄公一(鎌倉女子大学教授)

アシスタント講師：山口悦朗(クリエイティブサウンドスタジオ・エディス)

協力：鎌倉パーカッションクラブ

問合せ：地球市民学習課(担当：藤由)

TEL: 045-896-2899 月曜休み

バザーへのご協力ありがとうございました！

神奈川県国際交流協会では、去る11月28日、かながわ国際協力基金への寄付募集を目的として「草の根国際協力応援バザー」を開催しました。あーぢ 355 で7回目を迎えたこの催しには、今年も多くの方々から物品の寄付が寄せられ、また食品メーカー等の協賛も得て、当日は、約250人の

来場者で賑わいました。

今回の売上げ222,164円は、すべて「かながわ国際協力基金」へ積み立て、NGOが行う国際協力活動を支援するために、有効に使わせていただきます。ご協力ありがとうございました。

Hello friends

2005年1月1日発行
第242号

発行/財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷1丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
045-896-2626 FAX.045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp
印刷/株式会社エイコープリント

今回の紙面に登場していただいた松原さん、金田さんとは、昨年の夏に初めてお会いした。その時、兵庫県立一庫公園で実施したワークショップの事を伺った。公園で土を採取し、にかわを混ぜると絵の具になる。土にも様々な色があり、葉っぱなども混ぜて子ども達に絵を描いてもらった。独創的な絵がたくさん出来た。この事で、中々、印象に残っているのが、身近な自然環境に触れて、そこで採った土を用いて絵を描いている。環境を大事にしよう、ゴミなんか捨てて公園を汚したらダメなんだ」といった感情が芽生えてくるという話である。現在、「難民」、「貧困」など、地球規模で解決を図らなければならない課題が存在するが、「環境」もそのひとつである。国際平和展示室ではテーマの一つに、「地球規模の課題」を掲げており、熱帯雨林の森林破壊がもたらす影響をテーマとしたスライドシアターや、2005年と2006年とで1週間に出る家庭のゴミの量と質がどのように変化してきたかを示すジオラマ等、環境問題に関する展示も行っている。ファンタジー展示室に来ていただくもたに、国際平和展示室のテーマである「環境問題」にも触れてもらいたいという思いもあり、今年度から「アートと環境」と題したワークショップを実施する事とした。(地球市民学習課長 松本清史)

キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿。文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。

会員大募集中！

入会受付随時

入会方法

神奈川県国際交流協会の事務所で申込み郵便振込で申込み

口座番号 00290-9-14928

加入者名 (財)神奈川県国際交流協会
通信欄に生年月日、職業(学校名、学年)をご記入ください。

振込人住所氏名欄は必ずご記入ください。

お名前にはフリガナをお願いします。

年会費 一般 3,000円から

学生 1,500円から

団体 10,000円から

会員になると...

協会主催の各種催しやNGOの催し情報、ボランティア情報を定期的にお届けします。会員対象の催しへご招待します。これまでに映画会やメリーランド州から招聘した英会話講師との交流会を開催しました。各種割引サービスが受けられます。

- ・提携エスニックレストランで割引
- ・あーぢ 355 レストラン「メルヘン」で割引
- ・フェアトレードショップ「ベルダ」で割引
- ・協会出版物の無料提供・割引

より詳しい資料をご希望の方は、国際協力課

TEL:045-896-2964

E-mail:minsai@k-i-a.or.jp

までお問合せください。

神奈川県国際交流協会(KIA)は地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人のつながりを大切にしたい「国際交流」「国際協力」を推進する様々な事業を展開しています。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

キャラバン・サライ

今回の紙面に登場していただいた松原さん、金田さんとは、昨年の夏に初めてお会いした。その時、兵庫県立一庫公園で実施したワークショップの事を伺った。公園で土を採取し、にかわを混ぜると絵の具になる。土にも様々な色があり、葉っぱなども混ぜて子ども達に絵を描いてもらった。独創的な絵がたくさん出来た。この事で、中々、印象に残っているのが、身近な自然環境に触れて、そこで採った土を用いて絵を描いている。環境を大事にしよう、ゴミなんか捨てて公園を汚したらダメなんだ」といった感情が芽生えてくるという話である。現在、「難民」、「貧困」など、地球規模で解決を図らなければならない課題が存在するが、「環境」もそのひとつである。国際平和展示室ではテーマの一つに、「地球規模の課題」を掲げており、熱帯雨林の森林破壊がもたらす影響をテーマとしたスライドシアターや、2005年と2006年とで1週間に出る家庭のゴミの量と質がどのように変化してきたかを示すジオラマ等、環境問題に関する展示も行っている。ファンタジー展示室に来ていただくもたに、国際平和展示室のテーマである「環境問題」にも触れてもらいたいという思いもあり、今年度から「アートと環境」と題したワークショップを実施する事とした。(地球市民学習課長 松本清史)